

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

がん研有明病院大腸外科での国内外科研修を終えて

獨協医科大学埼玉医療センター外科

宮崎 俊哉

これまで私は、初期臨床研修開始から県内の医局関連施設でのみ外科研修を行っていたこともあり、他施設での手術や業務内容に興味がありました。日本臨床外科学会国内外科研修制度プログラムに応募させていただき、令和4年10月17日から28日までの2週間、がん研有明病院大腸外科で研修をさせていただきました。エキスパートの先生方の手術手技やレジデントの教育環境や現状を体感できると考えたためです。日常の臨床に追われる中で、長期間の研修は大変貴重なものでした。

大腸外科の週間スケジュールですが、週3回の各種カンファレンス、連日7時45分からレジデント同士の病棟申し送り後、回診を行っており、終わり次第午前中から手術という流れでした。カンファレンスのスケジュールは下記の如くでしたが、私は研修中の2週間、各種カンファレンスや様々な手術に参加させていただきました。

月曜日：レジデントカンファレンス。

火曜日：消化器外科合同カンファレンス 他科・多職種合同カンファレンス。

木曜日：消化器外科合同カンファレンス 全体回診。

まずは、レジデントの先生方の頑張っている姿・意欲に感銘を受けました。入院患者の把握はもちろん、手術の人員調整や病棟を各種当番制にして自分たちで役割分担をしていました。カンファレンスでは、多数の症例検討があるため、1症例の内容が過不足なくパワーポイント1-2枚ほどにまとめられており、それを英語でプレゼンする姿が非常に印象的でした。また、術後の標本提示や、合併症や問題が生じた症例のフィードバックも同様あり、Key画像に学会発表や論文作成の様にイラストや矢印で初見の方にも伝わるものとなっており、参考にすべき内容でした。また、レジデントカンファレンスでは抄読会・学会発表の予演や各論文の進行状況の報告が行われており、お互いのスキルアップに励んでいました。

研修期間中は数多くのロボットや腹腔鏡による結腸・直腸癌手術を見学する機会をいただきました。なかには並列でも手術を行っているため、ある程度症例を絞らなければならないことが残念でした。私は今回、ダビンチ手術を中心に見学させていただきました。ここ数年でスタッフ皆様各々ポート配置から手技の変化も見なかったためです。工夫が確認できたのも収穫です。操作に関しては、層の理解や解剖の三次元理解がしっかりあるため、淀みなく手術が遂行されていました。出血が全く生じず、リズムもよく、感銘を受けるばかりでした。さらに、再発症例や局所進行症例に対し骨盤内臓全摘・拡大手術が行われているのに立ち会えることができたのも収穫です。TaTMEを併用したtwo team手術を初めて見学させていただきました。肛門周囲から骨盤底解剖が画面に映され、個人的にはイメージがほぼない状態だったため、レジデントへの指導を拝聴することができ、とても勉強になりました。レジデントの執刀症例に関しても、妥協のない指導の中には手術への考え方やコツが豊富に盛り込まれており、自分に足りないもの・考えを確認しながら見学したつもりです。

スタッフの先生方の手術時もレジデントは積極的に質問し、チャンスをものにする姿勢に感銘受けましたし、レジデントの執刀の際、スタッフの先生からの指導は妥協がなく、関心しかありません。個人的に悩んでいたパートや吻合の緻密さ等、参考にさせていただきます。

2週間の不在をお許しくださった医局の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

今回の研修で得た経験を元に、自施設においても手技や取り組みを導入、さらに発展させ、少しでも追いついていきたいと考えています。最後に、このような機会を与えてくださった国内外科研修委員会委員長の高山先生、日本臨床外科学会の皆様、受け入れてくださったがん研有明病院大腸外科部長福長洋介先生、スタッフやレジデントの皆様には心から感謝申し上げます。今後の更なる飛躍を僭越ながら心より願っております。